



今月のテーマ 損害保険について考える(自動車編)

今月のつぶやき

自動車保有のリスクとコスト

損害保険の中でも、最も契約件数の多いのが自動車保険だ。平成24年7月1日現在の秋田県の人口は1,064,984人で、世帯数は392,025世帯、秋田県の自動車の保有台数は810,484台(平成23年国土交通省発表)となっている。一家に一台どころか、1人に一台といつても過言ではない。当然に任意保険に加入することになるし、加入期間は長期に及ぶため、固定費としての家計に占める負担は少なくない。

保険料の金額はというと、契約形態の違いで月額2・3千円の場合もあれば、数万円に及ぶこともある。生涯の自動車保険料の累計は膨大なものだ。仮に月額保険料の平均を5,000円として、加入期間を50年とした場合、3,000,000円にも及ぶから驚きだ。しかしながら、保険の加入内容を精査し、自分サイズにジャストフィットした状態にある人は、果たしてどれだけいるだろうか?

特に運転者の範囲の設定は、保険料に大きな違いをもたらす。年齢の変化や家族環境に合わせてリアルタイムな変更をしないと、無駄な保険料を負担することになったり、必要な補償を得られないなどの重大な問題を招くことになってしまう。

毎年の継続で掛けていることに甘んじ、しかるべき見直しがされていないケースは少くない。保険加入の選択肢は、各種共済・通販型のものなど、手軽さもあいまって広がりを見せている。その手軽さの反面、自己責任によるところが多くなってくるため、より慎重な検討をしなければならない。保険自体が目的ではなくて、自動車保有についてまわる身体・財物への損害賠償責任や、自身の車両の損壊等をしっかりとサポートされていなければならない。

最も危惧されるのは、秋田県の任意保険の加入率が、他の都道府県と比較しても極めて低いことだ。ある事故での加害者が無保険であった。その第一声は「保険に入っていても賠償しなければならないのですか?」…。事故が発生してからの対応では遅いということは、言うまでもない。



もし、事故を起こした加害者が任意保険に未加入であったり、賠償金を支払う能力がない場合でも、被害者は自賠責保険によって、一定の金額までは賠償金を受け取ることができる。すなわち、事故にあつた被害者が賠償金をもらえず、泣き寝入りするのを未然に防ぐのが自賠責保険だ。原付だからと安易な考えで自賠責保険に加入しないことは、あつてはならない。もし、任意保険だけ加入して

自動車保険には、強制保険と呼ばれている自賠責保険と、任意の自動車保険の2つに大別される。自賠責保険は、「自動車・原動機付自転車の所有者と運転者が」必ず加入しなければならない「ものだ。しかししながら、原動機付自転車などの車検制度が無い車種の場合、自ら申し込まなければならぬため、付け忘れや意識の希薄さなども相まって、強制保険とは言つてもその加入率は低い。そして自賠責保険とは、被害者の救済を第一の目的とし、対人賠償に限られているため、被害者のケガや死亡だけに賠償金が支払われるものであり、相手所有の自動車の破損や加害者自身のケガには、賠償金が支払われることはない。

自賠責と任意保険

自動車保険には、強制保険と呼ばれている自賠責保険と、任意の自動車保険の2つに大別される。自賠責保険は、「自動車・原動機付自転車の所有者と運転者が」必ず加入しなければならない「ものだ。

SEIKATSU CHIEBUKURO

生活

つぶやき「がんちゃん」の
生活にナニカト役立つ連載コラム
Vol-40



一生懸命
つぶやきます



■プロフィール
さいとう ひろかつ
齋藤廣勝
株式会社
トータルライフサポート代表取締役

- CFP®サーティファイドファイナンシャルプランナー
■1級ファイナンシャルプランニング技能士
■日本商工会議所 年金退職金等認定講師
■住宅ローンアドバイザー

保険と暮らしの相談センター



今月の無料相談会重点テーマ
“住宅ローン負担を軽減する”

- ~低金利の今、住宅ローンを見直す絶好のチャンス~
 ① 負担軽減方法の解説
 ② 借換による効果の試算
 ③ 繰上返済による効果の試算
 ④ 見直し方法、プランごとの効果比較

お気軽にご相談ください。



株式会社
トータルライフサポート
〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22
●営業時間：9:30～19:00 ●定休日：水曜日

TEL 018-827-7611
fax 018-827-7610
URL <http://tls-akita.co.jp>

詳しい
ホームページでも
ご覧いただけます。



いて自賠責が掛けられていない場合、3,000万円までの部分(死亡事故の場合は、自身の責任で負担しなければならない。相手に対する責任はもとより、自身の生活の安定まで破壊してしまいかねない。

任意保険に加入していない方の中には、自賠責保険で

自賠責保険の支払限度額
死ケ
亡▶3,000万円
ガ▶120万円
後遺障害▶75万円~4,000万円
(※何れも被患者1人についての補償金額)



身近で加入率も高いであろうと思われる自家用小型乗用の車種に絞つてみると、全国平均でも79.1%にとどまる。交通事故にあってみたら、およそ2割の確立で相手の車が無保障車となることになる。お一怖つ!!

※1 国土交通省発表平成23年3月現在

※2 (財)自動車検査登録情報協会発行平成23年3月現在

この場合には、大きな勘違いをされている方もいるが、そこには大きな勘違いをされている方も多い。

3,000万円というのは死亡と後遺障害の場合の限度額であり、それ以外のケガによる

入院・通院の治療費や休業補償・慰謝料を併せた限度額は120万円だということを知らない

ければならない。当然、この金額では足りない

ことは明らかだ。

このように、自賠責保険には限度額があり、且つ対人賠償だけの支払いであることから、死亡・後遺障害の3,000万円、ケガによる賠償の120万円を補う任意の自動車保険が必要になつてくる。

秋田における任意自動車保険の現状

任意保険に加入している方であれば、それは当たり前と思っているだろうが、意外にも未加入の方は少なくない。

秋田県の対人保険の加入率を見ると、全対象車種では58.3%(*1)にとどまる。都道府県別の順位を見ると、低いほうから5番目と残念な結果だ。最も高い加入率は、大阪の82.6%、全国平均では73.4%だからかなり低い。

保険契約の条件について

契約の条件設定次第で、保険料の金額には大きな差がある。この部分の設定を誤ると、補償内容や補償金額が同じであっても、保険料は大きく変化する。結果として、無駄な保険料を払うことになつたり、補償の対象にならなかつたりと、重大な事態を招きかねない。

本来であれば、更新の度に契約内容がチェックされなければならない筈だが、毎年同じ内容で継続ということになつていなければ、なぜ?是非、慎重な選択をして欲しい。

【運転者限定の設定】

車の使用状況によって、保険の対象とする運転者の範囲を限定することにより、保険料を割り引くというものである。主なものは、①本人限定、②本人・配偶者限定、③家族限定の3種だ。これらの条件設定をすると、その範囲外の者が運転して事故を起こしても、保険金は支払われないので注意が必要だ。

【年齢条件の設定】

自動車保険の年齢条件による保険料は、若い年齢ほど高くなっている。条件設定を上下させることにより、他の条件設定よりも保険料は大きく変動する。契約の車を運転する可能性のある、最も若い方の年齢に併せて契約

する必要があるが、若い人が運転する可能性がないのであれば、条件の引き上げで保険料を大きく下げる効果がある。その主な種類は、①年齢を問わず補償、②21歳以上を補償、③26歳以上を補償、④30歳以上を補償、⑤35歳以上を補償などだ。

【使用目的の設定】

車の使用目的により保険料が異なる。その判断は年間を通じて月15日以上を、仕事あるいは通勤・通学に使用するかどうかで判断をする。(1)業務使用、(2)通勤・通学使用、(3)日常・レジャー使用に分けられる。

【運転免許証の色】

記名被保険者の運転免許証の色により保険料が異なる。(1)ゴールド免許、(2)ゴールド免許以外(ブルー・グリーン)。

【その他の割引制度】

その他にもECOカー割引・新車割引・イモビライザー割引・長期優良割引・多数割引などがあるが、これらに気付かず割引の適用を受けていないなどのケースが多く見受けられる。今回紹介したのは代表的なものだが、これ以外にも各保険会社独自のものがあったりするので、改めてのチェックをお勧めする。

無駄な保険料を払わないためにも…。



意外にも知られていなかつたりする。自動車保険の補償の範囲とその内容について考えてみよう。

